

## 『古代文化』執筆要項

- 1) 投稿者は、原稿が投稿案内のA) からH) のいずれに属するものか、送り状で自己申告する。
- 2) 本誌刷り上がり頁は、図・表を含み、論攷は46字38行、研究ノート以下は48字45行で算出する。
- 3) 原稿には英文タイトルをつけ、執筆者名をローマ字で表記すること。但し、編集委員会で修正することがある。
- 4) 原稿種別A) からD) には600字以内の要旨を付すこと。なお、要旨の最初の1/3程度は、論点が斯界の基本課題、現在の問題意識と直接間接にどのように係わるのかを、他分野の専門家や一般読者にも理解できるように言及する。このうちA) については要旨も本文と共に掲載する。またA) は投稿時か採択決定後、英文サマリーを提出し、ネイティブチェックの有無を明示する。なお、英文作成の仲介も編集事務局でおこなう(翻訳費5000円、著者負担)。
- 5) 論攷の全体構成については、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで章を、1、2、3で節を、1)、2)、3) で項を表し、それぞれに見出しをつける。
- 6) 文中の外国の固有名詞は、アスペリン(J. R. Aspelin)のように片仮名で書き、括弧して欧字を記す。  
但し、極めて一般的な語の場合はその必要はない。日本では特殊とされるような外国文字は、やむを得ぬ場合を除き、ローマ字化して記すこと。
- 7) 註は、通し番号を付して示し、論文末尾に一括する。文献一覧形式、(水野、1934)等の表記は不可。
- 8) 日本語出典の表記は、著者・論文(書)名・雑誌名・巻号数・発行地・出版社(または発行所)の順に表記する。原文引用時のみ、掲載頁も併記する。発行地(都市名)については、東京23区は「東京」、その他は市・町・村名を表記する。但し、町・村名には道府県名を添える。  
例：佐伯有清『最後の遣唐使』(東京、講談社、2007年)、187頁以下。  
高橋健自「古墳より発見される環及び環座」『考古界』第5編第11号、東京、1906年)。
- 9) 本文および註の年号は原則としてアラビア数字表記とする。但し、史料引用部分は漢数字でよい。  
例：天平15年(743)／天平勝宝9歳4月4日勅／神護景雲元年正月己未条
- 10) 前出書・前出論文を再提示する場合は、「佐伯、註○前掲書」「高橋、註○前掲論文」とする。
- 11) 欧文の出典表記は日本語出典にならう。但し、論文は“ ”でくりローマン体、書名と雑誌名はイタリック体表記とする。所収はinを用いる。  
例：H. R. Hall, *Agean Archaeology* (London, 1925), p. 75.  
G. E. Mylonas, “The figured mycenaean Stela”, *American Journal of Archaeology*, vol. 1. LV, no. 2 (Cambridge, Mass., 1951) .  
A. Kavoulaki, “Processional performance and the democratic polis”, in: Goldhill, S. and R. Osborne, *Performance Culture and Athenian democracy* (Cambridge, 1999), pp. 293-320.
- 12) 欧文の出典(書物・論文)を再提示する場合は、op.cit.やCf.などの略号を用いず次のように表記する。  
例：T. C. Loening, *The Reconciliation Agreement of 403/402 BC in Athens: Its Content and Application* (Stuttgart, 1987), pp. 20-21.  
T. C. Loening, 註3前掲書, p. 28.
- 13) 図・表は本文中に(図○)(表○)としてそれぞれ通し番号で指示し、註で典拠を明記する。
- 14) 図・表はモノクロで作成し、グレースケール400dpi以上、特に線画はモノクロ二階調600~1200dpiとする。写真はスライドおよびカラー写真はできるだけ避ける。
- 15) 地図、実測図などには図中右下にスケールバーを配し、1/10、1/5万などで縮尺を示さない(編集作業時に変更することがある)。版面はキャプションを含め、縦20.5cm×横14.5cm以内に収まるものとし、原則として製版時と原寸もしくは縮小率50%以内を前提に作図する。図を紙媒体のみで提出する場合は、製版時の希望縮尺、写植文字などを明示したうえで送付する。
- 16) 図・表には、タイトル一覧を添える。挿図に写植が多数以上ある場合は、挿図ごとに写植文字一覧を添える。地図は国土地理院発行の図幅名を明記する。
- 17) 製版時の図・表レイアウトは編集事務局でおこなうが、希望を述べることは妨げない。その場合はレイアウト例を提示、もしくは印字した原稿の右側余白に挿入希望位置を朱書する。
- 18) 特殊文字使用・写植・再作図等特殊な処理のため印刷費用が増額した場合は、執筆者負担となる場合がある。
- 19) 著者校正は原則として初校のみとする。海外在住の場合はPDFでの校正となる。著者が校正をおこなうことが困難な場合は事務局が代行する。